

## 令和元年度 第1回桐生市環境先進都市将来構想推進協議会 議事録

### 1. 日時

令和元年6月17日（月）18：40～20：30

※（桐生市環境先進都市将来構想推進協議会委員委嘱状交付式終了後開催）

### 2. 場所

桐生市役所 6階 605会議室

### 3. 出席者

#### （1）委員（14人）

会 長：宝田 恭之〔群馬大学大学院理工学府 特任教授〕  
副 会 長：近藤 圭子〔きりゅう市民活動推進ネットワーク 代表〕  
委 員：西菌 大実〔群馬大学教育学部 教授〕  
天谷 賢児〔群馬大学大学院理工学府 教授〕  
根津紀久雄〔特定非営利活動法人北関東産官学研究会 会長〕  
初山 和久〔桐生商工会議所 副会頭〕  
茂木 理亨〔桐生商店連盟協同組合 副理事長〕  
吉原 裕次〔新田みどり農業協同組合 総務企画本部本部長〕  
新井 悠大〔桐生広域森林組合 業務部部長〕  
今泉 芳雄〔桐生市家畜自衛防疫協議会 会長〕  
佐羽 宏之〔2015年からの生活交通をつくる会 会長〕  
坂本久美子〔桐生市女性人材リスト（農業委員・花き栽培）〕  
中野 久美〔桐生市女性人材リスト（建築設計）〕  
村上 恵理〔桐生瓦斯株式会社業務部 特需開発課長〕

#### （2）事務局（4人）

助川市民生活部長  
川島環境課長  
大木環境都市推進係長  
高橋主事

### 4. 議題

- （1）桐生市環境先進都市将来構想について
- （2）その他

## 5. 議事要旨等

### (1) 会長及び副会長の選出

- 会長及び副会長の選出については、前期同様に会長を宝田委員・副会長を近藤委員に推薦され、委員の全員の賛同を得る。

### (2) 桐生市環境先進都市将来構想について

- 市の実施計画に係る平成30年度の進捗状況及び平成31年度の実施計画について説明。
- 桐生市環境先進都市将来構想の改定について説明。
- 桐生市環境都市推進補助金の実績について説明

### (3) その他

- 昨年度に引き続き、本年度も11月23日(土)に地場産振興センターにおいて当協議会主催での講演会を開催する予定となる。

### (4) 次回日程及び委員謝金についてのお知らせ等について

- 第2回協議会の日程についてお知らせ：令和元年10月予定
- 委員謝金について、協議会開催後、出席に応じ謝金を支払う旨のお知らせ

## 6. 委員意見（質疑応答）

### 【議題】 桐生市環境先進都市将来構想について

#### 【委員】

人口減少の問題について、今後市内企業では後継者不足による廃業が懸念されている。構想の目標となる30年先の人口推計では7万人に人口が減るとされている。30年先の桐生の街がどうなっているのか。コンパクトシティや公共交通をどのようにしていくのかを考えていかなければならないと思う。30年先を見据え今実施することを優先付けて考えていかななくてはならないと思う。

#### 【会長】

構想の目標となる30年先を考えると今実施するべきことがあると思う。

#### 【事務局】

30年先を見据えていくと、今現在構想にあげられている施策では不足していると思われる。そのため、現在実施できること今後実施できることを整理する必要がある。

今回の見直しにおいては、これまでの5年間の実績を踏まえ、構想が総花的にならないようにするために重点項目を新たに出し構想を推進する考えである。

また、人口減少の問題については、立地適正化計画や公共交通施策等を踏まえ検討していければと考える。

#### 【委員】

コンパクトシティの計画は今後重要であると思われる。環境課で実施する家電の買い換え補助事業等今現在実施して喜ばれることを重要視しているのでは先に続いていかないと感じる。

#### 【事務局】

現在上位計画である総合計画の見直しを行っている。また、コンパクトシティ実現にむけた取り組みは本年度始まったばかりである。30年後の人口減少に向けた方向性は、これからの総合計画とも繋がっており、総合計画を踏まえ先進都市の見直しを実施していきたいと考える。

#### 【委員】

構想の最終目標は、市民への環境意識づけであると思う。市民へどう動機づけを行うのか。人口減少は明らかであり、環境にやさしい考えを持てる市民を増やしていけるかが重要と考える。例えば、太陽光発電のようにエネルギーの価値が市外へ流出してしまうことを理解できる市民を増やすなど、1人1人が意識を高め率先して行動できる市民を創出できればと考える。

**【委員】**

ピクトグラム整備について、事前協議なしに商店街の前に整備された。

交通安全の観点からは必要と感じるが、商店街での車利用がしにくい状況にあると感じる。施工する際は、事前に協議をお願いしたい。

また、商工会議所から市へ毎年要望書をだしている充電スタンドの普及について、整備を検討していただきたい。

**【事務局】**

ピクトグラムについては、群馬県と連携した取り組みを行っている。桐生の街中は自転車の走行が難しい箇所もあることから県と協力して推進している状況になる。商店街の利用については、車の利用もあるが、自転車等車を使わないような利用方法もあると考える。商店街からの意見として事前協議については今後協議するよう担当課へ連絡する。

充電スタンド整備においては、商工会議所の要望書を踏まえ現在検討を進めている。

桐生市では各所公共施設更新の時期がきており、費用対効果を踏まえ導入施設を検討していきたいと考える。また、現行の環境都市推進補助金のメニューを削減し、充電スタンド整備を実施していきたいと考える。

**【委員】**

充電スタンド整備については公共施設のほか、民間施設でもよいと感じる。大型商業施設は駐車場が広いので良いと思う。

**【委員】**

充電スタンド整備の目標値が10年間で1機では先進都市として寂しいと感じる。近隣他市ではすでに数十基整備されている状況にある。

**【事務局】**

充電スタンドが整備されることにより、市民の利便性向上や、観光客誘致にも繋がると考える。当初電気自動車の普及に合わせて検討していたが、近年電気自動車の開発が飛躍的に進んできていることを踏まえ設置を前向きに検討していきたいと考える。

**【委員】**

充電スタンド整備について、クラウドファンディングは難しいと思うが、ネーミングライツやふるさと納税等の制度を利用するのも方法であると思う。

**【委員】**

ピクトグラムの整備について、30年先を見据えると、将来的には街中へ車を乗り入れず、自転車や徒歩、公共交通で移動する方向性が考えられる。ヨーロッパ等海外では既に街中へ車を乗り入れないような整備がなされているところもある。車に頼らないまちづくりは今後必要と感じる。

国においては自転車活用推進法が成立し、県においても自転車利用の計画が先般策定された。県は、高校生の自転車事故率が全国1位になっていることから、高校生の通学路への整備が重点とされている。

東京都内では、自転車が走りやすいようにピクトグラムが整備されている。

**【委員】**

コンパクトシティの整備をしてから自転車道を整備した方が効率がよいと思う。

**【会長】**

以前JST事業で研究した際、市民合意を得ることが重要であると感じた。コンパクトシティの整備はこれから始まるため、今後のまちづくりについては商店街や市民との合意形成を考えていかなければならないと思う。一体化することで成果がうまれていくと思う。

**【事務局】**

他課に及ぶ意見等については、取りまとめた後、庁内組織において意見交換を行い、その結果を当協議会へ報告していきたいと考える。

**【委員】**

現在当計画で実施している施策は、個別にやっているものを集めただけなので全体的な計画性が見えてこないと感じる。様々な問題がからんでいるので、設計をしっかりと立てていただきたい。

商店街活性化に向け、充電スタンドを商店街に整備し、商店街の移動はMAYUや電動アシスト自転車を利用するなど今検討できそうなこともあると考える。協議できる場を設けていければと考える。

**【会長】**

大きな枠組みとして、スローモビリティの項目を出し、その下に中心市街地活性化・商店街活性化やコンパクトシティ等のまちづくりの項目をまとめていくとよいと考える。コンパクトシティの項目を主題にとらえると環境部門では難しいので、スローモビリティを環境部門で重点的にとらえて考えていければよいと思う。

**【委員】**

再エネ設備から電力供給した充電スタンドを作ればインパクトがあると思う。

クラウドファンディングやネーミングライツ等で整備できれば先進的であると思う。

**【委員】**

大規模な太陽光発電設備の整備について、未利用農地を太陽光発電設備として整備するのは良いと思うが、山林を切り開いて太陽光発電設備を整備するのは自然破壊につながると感じる。また、20年、30年後のパネルの産廃問題が不安である。黒保根・新

里地区では事業者はみな市外の業者であり市への利益はない。自然豊かで引っ越してきた人達がいなくなってしまった。

**【会 長】**

再エネ設備の整備は自然破壊と隣合わせであるかもしれない。市の条例整備はどの程度進んでいるのか。

**【事務局】**

条例については議会で図っている状況にある。太陽光発電設備については、国は導入を進めていたが、整備に対する規制について法整備はなされていない。市では、景観法や豪雨等災害時の危険度を考慮した内容での条例制定を検討している状況にある。

**【委 員】**

世界的にまた国内でも現在 SDG s を全面に押し出している。具体的に SDG s の内容を取り込んでも良いと思う。

**【事務局】**

SDG s においては、現在次期総合計画策定の中で検討されている。各課に関連する項目を選定している状況である。上位計画での方向性が示された段階で反映してきたいと考える。

**【委 員】**

総合計画審議会とは別に環境部門において当協議会での意見を総合計画へ反映させるような考え方ができるとよいと思う。桐生市では現在人口が減少しており、県内では一番減少している状況にある。生産年齢人口も減っていることからマーケットも縮小している。商店街も苦しい状況にある。商店街を残さないと地元活性化には繋がらないと思う。地元でお金がまわるような考え方が必要である。当協議会において議論し上位計画へ反映させていきたい。

**【副会長】**

現在総合計画審議会において次期総合計画の内容について審議をしているが、当構想の重点項目も吸い上げられている。当協議会で意見を出すことにより上位計画へ意見が反映される。

環境都市推進補助金事業については優先順位を考えて内容を精査していただきたい。

**【会 長】**

電動アシスト自転車購入補助だけでは先が見えてこないと感じる。計画において大きな枠組みを出していきたい。例えば、計画の大きな枠組みとしてスローモビリティを冠とし、下位にゾーン20、自転車・徒歩での生活、商店街活性化等関係する項目も出てくると思う。

**【事務局】**

方向性については意見をとりまとめ、整理した後、他部局と横断的に調整し検討していきたいと考える。検討結果については次回会議で報告していく。

**【会 長】**

各課で策定している個別の計画が繋がるとよいと感じる。

自転車を利用し、商店街で買い物しやすい仕組みづくりを検討することも大切であると感じた。自転車では持って帰れない物もある。商店が連携し、配達サービスを行うなど、これまでの商店にない取り組みを考えるのも良いと考える。また、意見交換しないと合意形成はできないと思う。中心市街地活性化に向けて市民との合意形成が必要不可欠であると感じる。

— 以上 —